

## 令和 4 年度第 1 回市川町総合戦略会議録

会議名	第 1 回市川町総合戦略会議
開催日時	令和 4 年 7 月 7 日(木) 10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所	市川町役場 4 階 相談室
出席者	委員：小野康裕、多田正樹、石田勝則、村上和男、北尾政憲、長尾克洋、 村田敏朗、岩木和子、木村重己、吉本晃司、石川伸也、小西正弘、 吉田花梨 町：岩見町長、藤原副町長、内藤企画政策課長、近藤地域振興課長、 藤後課長補佐、柴田主事
会議の議題	1 開会 2 あいさつ 委嘱書交付 3 出席者紹介 4 委員長、副委員長の選任について 5 協議 （1）令和 3 年度実施事業及び評価改善等について （2）人口ビジョンの見直しについて （3）令和 4 年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業 について 6 閉会
会議資料	【事前配布分】 ・令和 4 年度総合戦略会議委員名簿 ・会議次第 ・市川町総合戦略進捗管理シート ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業実施計画 【当日配布分】 ・座席表 ・人口ビジョン見直し資料 ・神戸新聞記事コピー ・チラシ（クラファンプロジェクト2、女と男市川町ライブ、ライトトラ ップ、宿泊キャンペーン） ・リフパーまっりのうちわ
協議	5 協議 （1）令和 3 年度実施事業及び評価改善等について （2）人口ビジョンの見直しについて （3）令和 4 年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業 について
委員長	協議事項の 1 番、令和 3 年度実施事業及び評価改善等について、それから 併せて人口ビジョンの見直しについて、関連しているので事務局の方から 説明を手短にお願いしたい。

事務局	(人口ビジョンの見直し、令和3年度実施事業及び評価改善等について説明)
地域振興課長	(情報発信拠点整備の進捗状況について説明)
委員長	2番のところの追加説明をしていただいたが、全体の中でもう少し説明が必要、あるいは質問等があれば先に伺いたい。
委員	48番の危険空き家の対策の補助について、一件当たりいくらほど出るの？査定は誰がどういうふうに行うのか。
事務局	ここに記載のある協議会が判定を行うということで、その中には不動産の専門家もいらっしゃるし、4地区の区長会長も入られる。区長会メンバーが交代されるのがネックになっていると聞いている。金額としては、国、県、町合わせて100万ほどだったと思う。
委員	今かなり増えていて、近平の2件もひどい。1件はとても大きい家で、家の中から木が生えたような感じで困っている。本人に言っても、そんなお金がないと言われる。このような事業があるのであれば、もう少し前に出してPRすべきじゃないかと思う。
委員	先ほど、補足説明されたこのトラックはどういう意味か。
地域振興課長	(移動式情報発信拠点について説明)
委員長	他にご質問は。特になければもうご意見伺っていきたいと思うが。
委員	私は2020年に引っ越してきたばかりだが、タウンセンターのように歩いて散策できるような町並みがないと感じた。マックスバリュや図書館の辺りに皆さん買い物に来られるが、カフェとか、若い方が行ってちょっと時間を過ごそうと思うワクワクするようなエリアがあればいいなと思う。車がなければ市川町内の移動は難しいので、駐車場の問題もあると思うが、もっとあの辺りを活性化させて、必要な買い物だけではなく、もっと他の買い物ができる、時間が過ごせる、何かが学べるというふうなエリアにしたらいいいのではないかと思った。
委員長	おっしゃることはよく分かる。外国にはよく小さな町でもタウンセンターがあって、遊歩道やカフェ、ショッピングモールがあって文化施設がある。日本には意外とそういう所が少ない。基本的には車が通る道路が優先され、ゆっくり過ごせる場所がないという感じ。タウンセンターとして、中心的なまちづくりというのも大事だろうが、市川町の中心がどこなのかよくわからない。駅はあっち、買い物はあっち、あれはこっちとなっているのをどうしていくのか、コンパクトシティの考え方と近いのかなと思う。市川高校の先生、若い高校生たちがこの市川町をどういうふうに見ているかも含めて、学生も減ってきている中で、この市川の町の魅力もやはり高校の魅力イコールの部分があると思う。何かご意見があれば。
委員	若い世代が地域の魅力を理解して、地域に貢献したいという思いを自ら発信できるような、そんな生徒に育てていきたいと考え、来年度から2年生のクラスに地域探求クラスというクラスを設けて、いろいろな方と触れ合い、実際に交流しながら体験させて、また高校生のアイデアを発信させて地域貢献ができればと考えている。特に今年度ふるさと納税の使い道の

	<p>選択肢に、市川高校個別の教育支援を入れていただいて本当にありがたく思う。公立高校でさえも縮小・合併されるということで、本校は私立高校だが、私立なりの本校の魅力をしっかり発信していかなければならないと思っている。本校にはいろいろな教員という人材がいるので、そういう人材を地域にも貢献できたらいいなと思う。特に本校には座禅がある。座禅は今、世界的にマインドフルネスという言い方で、大きな企業が研修に使われている。アップルとかグーグル、有名なのはスティーブ・ジョブズが禅の考え方に傾倒して、日本の禅の僧侶にいろいろな薫陶を受けて iPhone ができたということも、あまり日本人に知られていない。私も生徒にそういうことを伝えている。こういうことも、地域の方に少しでも開放できればと思い、最近では中学校の生徒に座禅の授業を展開させていただくこともある。座禅というと、厳しいとか敷居が高いようなイメージがあるが、実際に教えるのは身体を整えるための呼吸法。特に今の若い子どもたちは、ずっとスマホなどをさわっていて、落ち着いて自分、あるいは呼吸を見つめる機会がないので、切れやすく、感情のコントロールができないことが多いと言われている。無になるというのはなかなか難しいので、本校の教員が呼吸の仕方から指導している。うちの生徒もそういうところを理解しているので、前はいろいろ問題行動も多かったが、最近は本当に問題行動も減って、落ち着いた高校生活を送れる生徒も多くなってきている。そういうことを少しでも地域の方々にも還元できたらと思っている。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>それは一般の方も参加ができるということか。 できる。求人でも来られる会社にも、うちの教員が研修させていただけるということは伝えたりしている。</p>
<p>委員長</p>	<p>その辺も役場も通じてアピールできれば、町の形が見えやすくなるかもしれないが、また協議いただきたい。他に何か。人口動向を見ても、大体5年ぐらい先を減で進んでしまっているという現状。かなり真剣にとらえて、議論をしていかないと人口減少を抑えられない。</p>
<p>委員</p>	<p>新しく町外の人を呼び込むという方法もあると思うが、ふるさとが市川町で、就職して東京とか都市に出ていて、定年になって第2の人生をふるさとで、という人たちが多いのではないか。大事なのは、今年のこの会議でも木村委員からの意見であったが、農業の後継者だと思う。営農組合のような組織も細っていつているところがあって、地域振興課長からの意見でも、集落のことなのでなかなか介入しにくいということだが、できれば町がモデル地区か何かとして集落に入って、その集落を今後どういうふうにしていけばいいかということと一緒に考えていく、その中で、定年退職しても、まだまだ働ける人や働きたい人が入っていけるような条件整備をしていただければどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>実際のところ、営農組合も衰退しているのが現状だが、大規模農家でも後継者がいない、若者がいない、若者が入って来ても続かない、ということで、今預かっている面積をどうこなしていくかが問題。地域の人、預けているから何もしなくていいという意識が強く、余計に負担も大きい。農</p>

	<p>地水とか、その維持管理をしてもらうのはありがたいが、それよりもっと人をあてがってほしいと。そうしなければ維持していけない。畦畔が多いと結局草刈りと水管理に労力を要してしまう。地域振興課長ともいろいろ話をしているが、先のことについて話し合いをしながら、他の地区から人を呼ぶとか、もっと意欲のある人に来てもらって農業を守ってもらうとか、考えていく必要がある。</p>
委員	<p>農業高校とコラボしてはどうか。例えば学生さんに、経営と農業を勉強してもらうという意味で。</p>
委員	<p>農業高校は分からないが、農大生には1月間研修期間があって、40日間、住み込みでうちに来てもらったことがある。しかし、その子達が実際農業に就いているかというと就いていない。農大生でいる間は農業体験をするが、その人が農業に就いているかというところではない。農大生はちょっと厳しい。営農組合が高齢化しているから、定年退職された方でトラクターに乗ったことのない人でも練習して乗ってもらうよう今進めている。それも、人がいればいいが人がいない営農組合もあるので、そういうことも踏まえて、考えていきたいと思う。</p>
委員長	<p>営農組合も若手が70歳代なので先行きが厳しいと思うし、農業大学でも農業方面の就職者は数パーセントという状況。その数パーセントの農業に就くのは大体2代目の人なので、他のところへ行って農業をする人はほとんどいない。これはかなり大きな問題にこれからなっていくと思うし、放棄田もできるだけなくしたいということもあるが、一定の部分は切り捨てざるを得ないことが起きてくるだろうと思う。それに合わせて、やはりスマートシティ的な構想もどこかに取り入れていかないと、町全体の維持管理ができないだろうし、人口動向では最終的な数字が半分以下となってくるので、今何をしなければならぬか判断しなければならない。私の意見であるが、根本的なところとして、一体市川町は何を目指していくのかというところ。アドバランをしっかりと上げておかないと、この一つ一つの項目がバラバラでついてこない。どういう人に来てほしいのか、住んでほしいのか、10年後20年後30年後どういう町になりたいのか、というビジョンが明確になっていないところが問題なのかなと思う。</p>
委員	<p>耕作放棄地の解消について、現状の農地を維持管理していくのは難しいので、逆転の発想で、山間の耕作放棄地などは解消しないで里山に戻し、整理された農地だけを守っていくのはどうか。人口は減少していくが、市川町の面積は変わらないので住んでいる人は点在している。4000人になったときに、道路や水道などのインフラをどのように維持していくのか、そういう先を見たビジョンが要るのではないかと思った。</p>
委員長	<p>これも私の意見だが、市川町が合併する前の4000人のときは一体どうなっていたのか、半分の5000人ではどうだったのか、6000人ではどうだったのか、これをもう1回見直してみる必要がある。当然、インフラや情報網などいろんなことが変わってきているので、そこは加味しなければいけないが、市川町が合併して何十年か経っている中で人口動向で、人口がこ</p>

委員	<p>の時代のときの町政はどうだったのか、住民の暮らしの満足度はどうだったのか、過去を見直してみる必要はあるのかなと感じる。</p> <p>今日人口ビジョンの見直しということが出たが、平成30年から令和3年度まで、市川町では40名ほどの出生しかない。それに対して死亡が約190人。この中で人口が増えるというのは絶対無理。子どもをどのようにして生んで安心して育てられるような町にするかということで、他市町でも例えば高校までの無償化、医療費の無償化、給食を無料にするということをしている。市川町もいろんなことをしておられると思うが、もうひと工夫がないと、他の町と比較すると見劣りしてしまうのかなと思う。自然増減は大體固まってしまうと思うので、他の市町でもどうするかというと、他市町から引っ張ってくるか、一度出られた方に戻ってもらうところで転入転出の施策をとることになる。市川町では転入がこの4年ほどで250名ほど、転出が350人ほどで、自然増減と社会増減を足すと、250から300名は毎年減っているというような状況。この社会増減に関してすぐにどうこうということではないが、ゴルフアイアン発祥のまちということで、数年前、市川町にゴルフまつり実行委員会というのが発足して、人を集めて寄って来ていただいて、それで町をPRして、人の流れも入ってくるというふうな形でやってきた。この数年はコロナでイベントが中心になっており、昨年からはゴルフクラブの関連業者の方と連携して、小学校のゴルフ体験会をしてきて、今年も甘地小学校で実施したところ。小学校の児童に聞くと、ゴルフアイアンの発祥の地ということを知っている子は結構多い。ゴルフをしたことがあるという子も結構ある。こちらとしては、継続してゴルフをして、大人になってもゴルフを楽しんでしてやっていってほしいという思いがあるが、残念ながら中学校にいくと断ち切れてしまう。中学校ではこういうことが全くない。市川高校には、何年前かにゴルフ部があったが今はなくなっていると聞いた。せつかく市川町に高校が1校あり、そこにゴルフ部が今まであったのだから、是非復活をお願いしたい。中学校、高校と継続してゴルフをしていただきたい。また、生涯学習課と地域振興課が協力して、サマースクールでもゴルフをされているが、そういうイベントを継続していろんな形でしていただいて、最終市川ゴルフでラウンドするというような流れを作っていただけたらいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>先ほど部活のことを聞いて私も思ったのだが、この度中学校も合併されてせつかく一つになっているのだから、中学校でも部活動として、どなたか先生方に協力いただいてゴルフができないかなあと感じた。市川高校の校長先生の方には先ほど部長がお話されたのでそのままお願いしたいなと思う。人口減云々ということについては、私の住んでいる北播の状況を見ると、社会移動、家族での引っ越しに関しては、小野市がわりと子どもに対するいろんな支援や施策を先に先に行なっているので、加西、西脇、加東から大勢小野市に引っ越して、1人勝ち組のような感じになっている。どの世代を持ってくれば一気に増えるかということを見ると、やはり子どもを持っている世代を家ごと、ということを中心に考えられていいのかなと</p>

<p>委員</p>	<p>感じた。</p> <p>この人口減少がすごい勢いで進む中で、人を増やす方も大事だが、市川町が住みやすい、と感じてもらうことが大切ではないか。人口減少・高齢化の中でいかに住みやすくするか。循環バスもそうだが買い物ができるかとか、直面する課題をもう一度拾い上げて、しっかりと対応するような施策も必要ではないか。住みやすさに力点を置いて、市川町は住みやすい、となれば、市川は住みやすいことを聞いて他所から入ってくるなど、先ほどの小野市のようにどんだんいい方向に向くと思う。</p> <p>前から取り組んでおられる通勤補助の関係で、私はもう少し広げて、通学という部分もみてはどうかと思う。実態として姫路や神戸に通われている学生さんがいると思う。通勤は通勤手当も出ているが、通学は家庭の負担になっている部分だと思うので、そういったところに広げて、住みやすさという点に力点を置いたような取組みを考えて進めていくべきではないかと思う。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>いいご指摘をいただいたと思う。他に何かご意見は。</p> <p>農業に関して、私どもも放棄田があって、息子も、お米を作れば美味しいのができると言うが、家の前の畑までイノシシやシカが来る状況で、田畑があってもやはりそういう被害があるので作れない。地域振興課で仕掛けを借りて近所でも置いておられるが、なかなか入ってくれないということを知っている。地域だけでは無理があるなど、感じている。</p> <p>それから空き家の件だが、近くに3年ほど前までは剪定に帰ってこられていたが3年ほど見なくて、木の枝が伸びて塀から出てしまった所があった。通学路になっていて左右の確認も危険で、また車が通るときも車に枝木が当たって危険。区長に通じて連絡をとっていただくと、施設に入っておられるということで、シルバーに頼めば整備してもらえという話をしていた。ただ、その後はどうなっていくのかなと思う。私の区の中の空き家を数えてみると8件ある。町内で一体何件の空き家があって、他の地域はどのようにされているのかと思う。近くを見ていると、何らかの親戚関係の方が草を刈られているのは聞くが、怖いような実態になっていくのではないかと感じる。</p> <p>それと、スポーツセンターとリフレッシュパーク市川に遊具があって、地域の方たちも利用されているが、役場として安全点検はどのようにされているのかお聞きしたい。</p>
<p>地域振興課長</p>	<p>地域振興課の方で管理しているリフレッシュパークの遊具については、点検は毎年度行っている。けがをする恐れがあるということで、今年度芝生を敷き、安全に遊んでいただけるように改善をしている。</p>
<p>副町長 委員 企画政策課長</p>	<p>スポーツセンターの方も同様、毎年安全点検は行っている。</p> <p>空き家は何件ぐらいあるのか？</p> <p>平成26年頃に、一度区長にお願いして空き家の数を調べたが、そのときで450件ほど。その中で、空き家バンクに登録しているのが110件。その110件のうち、売買などの成約済となったものが60件ある。今空き家バ</p>

<p>地域振興課長</p>	<p>ンクに載っているのが 50 件ぐらいで、空き家は多いが活用できる空き家が少ないため、バンクの登録も少ない状況になっている。</p> <p>笠形オーガニックの関係で住むところを探すと、空き家の購入ならいいが貸すのは嫌だという場合が多かった。1 回市川町に住んでみたいという方がいらっしゃっても、購入となると厳しいところがあって、家賃で住みたいという方にはほとんど物件がない。家賃で貸していただけたらもう少し移住にもつながるのかなと思う。空き家バンクに登録されている物件というのは、もう市川町から出られて、財産を処分したいという方が大半なので、貸すのではなくて買ってください、そこには農地もついてくるが農地も全て買ってください、というイメージ。すべて無料で家も田も全部もらってください、という方もいらっしゃるが、どちらにしても負担が大きい。農業をする気はないが家だけほしい、と都会から来られた方が、空き家を買おうとすると、普通の 1 家族では管理できない面積の田んぼがついてくる。農地は要らないという方がいても、家だけだと売らない、ということがある。そういった方が多いのがネックになっている。</p> <p>それと、住みやすい町という話が出ていたが、私個人的には住みやすいって何なのかなと思う。各市町が競争のようにいろんな補助金を出しているが、実際市川町は周辺を見ても目立ったこともできていないし、これといって発信するものもないが、もっと遠いところに目を向けなければいけないのではないかなと思う。私は平成 28 年に宮城県の山元町に災害支援で行かせてもらったが、向こうで市川町と言っても誰も知らない。だから、もっと全国に市川町のありのままのいいところを発信するべきだと思う。そんなこともあって、この情報発信トラックを今回整備する。市川町のいいところは土地が安いこと。兵庫県で 3 番目に安い。小野市がいいという話が出ていたが、家族を呼び込むのに、ちょっと補助金があるからといって、それが目当てで家族が移住して来られないと思う。やっぱり土地が安いというのは大きいと思う。家を建てる場合、東京で建てても、姫路で建てても、市川町で建てても、同じ家を建てれば金額はほぼ同じ。しかし土地の値段が違う。姫路は宅地の平均価格 6 万 5,000 円ほど、福崎で 4 万 3,000 円、市川町が 1 万円ちょっと。土地が安いということは固定資産税も安い。ずっと継続して安いという、そのようなことをもっともっと発信しないといけない。それと災害がない。火山がない。原発がない。何よりも島国の日本で津波はまず起こらない。内陸であるからこそそのいいところを発信するべきだと思う。そんなことを言いながらも、町の職員としてそこができてないのだが、これからこの移動式の情報発信拠点を使って、全国にこの市川町の良いところを発信していきたいと思っている。また皆さんのいろんな知恵とか、協力をお願いしたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>今の時代の流れは、子どもの教育も含めて便利なところへ流れていくイメージ。姫路でも城西小学校が、生徒数が大幅に減って小中一貫校にしたところ、今マンションだらけになって、全然規模が足りないという状況になっている、と先生方が言われていた。人の流れというのは循環していくの</p>

<p>委員</p>	<p>で、今度はまた田舎が見直されるときがくるだろうと思う。そのための準備をするときかなというふうに思うので、やはり市川町はこんな町だという打ち出し、アピールをすべき時かなと思う。</p> <p>神崎郡3町を担当させてもらっているが、市川町が、福崎、神河、姫路市と比べて何が違うのか、という点について、観光地が少ないという話が出ていたが、他に市川町が積極的に打ち出せるものはアイアンくらい。まちの魅力をもっとPRしていかなければならないという点で、市川町が他の市町に比べて一つだけいいものがあるというか、できたというか、メディアがもうひとつ増えたというのは、「女と男」の市川くんが、全国に発するメディアを持っている、その方が市川町に来たということは大きいと思う。私は神戸新聞で神崎郡3町を担当すると言っても、神戸新聞なので兵庫県内にアピールするのが精一杯だが、市川くんはもっと広いメディアになっている。市川くんと協力して、いろいろ市川町の課題を解決する方向に持っていけないのではないかと、そういう可能性があると思っている。市川町は人口減が深刻だという話だが、来てもらうためには生活していただかないといけない。その手段は農業になるかと思うが、若い人に農業というのはカッコいいものだ、或いは魅力的だ、ということ全国にアピールして、人を呼んでくれるというのは、市川君が最適ではないかと思う。移動式のトラックもPRの活用方法としてあるが、やはりテレビやネット、映像で若い人たちに広くアピールができるというのは大きい。今回、市川高校に地域探求コースができるということで、そういうところと協力をしながら、オーガニックの近くに家を買われているので、その辺りの方々と協力しながら、目に見える形で、消費者側の方と生産者の方と一緒にイベントをして、美味しかったよと、すごくいいものいただきましたよ、というように face to face で感謝の気持ちや生産の喜びを伝えられるような機会を作るとか、そういう形で若い人が農業をしたくなるようなアピールをしていけばいいのではないかと思った。神河は神戸新聞の他にケーブルテレビがあって町内で流れているが、それはもちろん町内に限られる。福崎はそういうものはない。市川町は大きなメディアを昨年手にしたということで、私も神戸新聞として、その活動も取材しながら、市川町をこれからどのように発展させていけばいいのか、考えながら取材していきたいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどから人口減の問題で、子育て世代を応援するという意見も出ていたが、私が思うのは、幼稚園から高校まで地元でずっと育てて大学に行かせても、卒業したら地元へ帰ってこない、出たきりになる。だから、大学や高校を卒業して地元へ帰ってきて、地元から通えるところに就職するような形をつくれなかなと思う。ということは、帰ってきたときに給付金を出すとか、結婚して市川町に定住するような方に給付金を出すとか、出生の方ばかり応援しても、大学を出たら外へ出てしまうので、そこをもう少し考えたらどうかと思っている。ここで就職や結婚をすれば、そのあとも何らかのフォローができれば、そういった方策が考えられないかなと思う。</p>

委員	<p>ている。</p> <p>今いろいろお話を聞かせていただいたが、議会としては立場上、我々議会は行政側から提案されてそれをチェックする機能を持っているので、この中で私自身が提案をしたり意見を言ったりするのはどうしても慎重にならざるをえない。議員は私以外にもいるので。その辺のことも含めて、私は今まで皆さんからいろんな意見を聞かせてもらって、すべてメモを取ったつもりでいるが、それを議会で活かしていきたいと考えている。私個人的にはいろいろな意見はあるが、私の立場上は今のところそれくらいしか言えない。</p>
委員長	<p>40 番 41 番についてご意見は。リフォームと高齢者の運転制御機能の件。この事業に関してのご意見、何かお持ちの方は？運転制御機能については、今の車はほとんどついているのかなと思う。リフォームに関しても、一定のリフォームはある程度進んできているのか、周知ができていないのか、これは微妙かもしれないが。よろしいか。特にないようなので、これで1番2番のところを終わらせていただいて、3番の令和4年度新型コロナウイルス感染症対応の、地方創生臨時交付金事業について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業実施計画について説明</p>
委員 地域振興課長	<p>17番は、どういうふうに進めるのか。</p> <p>燃料、ガソリン、軽油等が相当高くなっているの、何か救済措置的なものを、ということで地域振興課から提案させていただいた。ナンバープレート<small>の姫路の後ろの数字の部分</small>が1・2・4の車両、例えば一般的な貨物、ハイエース、大型トラック、トレーラー、2tトラックも対象。2ナンバーはバスになるが、市川高校のようなバスも対象と考えている。バスに関しては町内では市川高校や助六さんの送迎のバスなど、台数的には少ないと思うが、今考えているのは、これらの排気量に応じて補助金を出すというもの。あくまで事業を営んでいる事業所を対象としており、その確認に申告書の提出を求める。学校法人である市川高校さんは、もしかしたら非課税団体になっていて申し訳ないが対象にならないかもしれない。基本的には市川町内で事業を営んでいる事業所の所有、車検証のコピーなども提出していただくので、そういったところで判断をして、該当するものに関しては1台幾らという補助をしていく。金額設定の方は、予算との兼ね合いもあるので、今から調整するところ。</p>
委員	<p>市川高校のバスについて、非課税団体だから対象にならないとおっしゃったが、バスについては非課税かもしれないが、燃料は当然必要で、その分だけは高騰しているわけだから、検討していただく必要があるのではないか。</p>
地域振興課長	<p>例えば、バキュームカーは8番になるが、そういったものは今回対象外にしている。あくまで1・2・4ナンバーで事業を営んでいるというものを対象にしている。個人事業主の場合は、確定申告書のコピーを提出していた</p>

	<p>だくので、学校としてもし申告されている書類、1年間の1月から12月までの収支の申告書のコピーを用意していただけるのであれば、対象にさせていただきますと思う。非課税なのでおそらく申告がないのかなと思ったので申し上げたのであって、非課税のところの対象外としているわけではない。あくまで事業を営まれているということは、最低の条件として入れているためであって、もし学校の方で何か確定申告のようなものをされているのであれば、そこで所有する1、2、4ナンバーは対象になる。またご相談いただければと思う。</p>
<p>委員 地域振興課長</p>	<p>8ナンバーはなぜ外されたのか。 8ナンバーは特殊車両で、線引きがとても難しい。例えば、キャンピングカーも8ナンバーである。</p>
<p>委員 地域振興課長</p>	<p>キャンピングカーは事業用にならないのでは？ ならない。ただし、人によっては8ナンバーをお持ちで、営業所得がある方もいらっしゃるので、今回はあくまで、人を運ぶ、物を運ぶ貨物に関して、燃料をたくさん使うであろうと制度設計をした。7番のスマート農業・省力化であれば、農業者に特化した事業として地域振興課で取り組んだ。そして今回の燃料に関しては、運送業に注目したが、運送業だけをピックアップすることもなかなか難しく、どこかで線引きはしなければならぬので、今回はナンバーの1・2・4ということで考えた。</p>
<p>委員長 企画政策課長 副委員長</p>	<p>他に全体的に聞きたいことがあれば。なければ、私の方の進行を終了させていただきます。 それでは閉会にあたり、多田副委員長よりご挨拶をお願いしたい。 (閉会あいさつ)</p>